

シロイチモジヨトウの生態等

○生態

- ・成虫は5月頃から発生が認められ、その後徐々に増加し、8～9月に発生ピークとなる。
- ・年間世代数は、西日本の温暖な地域では、5～6世代と推定される(高井、2000)。
- ・産卵から羽化までの発育期間は、25.5℃では23日、30℃では16日(高井、1988)。
- ・休眠はせず、冬期においても露地栽培ねぎで発生が見られることから、耐寒性は比較的強いと考えられる。
- ・老熟幼虫又は蛹で越冬すると考えられる。

○被害を受ける作物

- ・ねぎ、キャベツ、アスパラガス、エンドウ、ほうれんそう等野菜類、カーネーション、宿根かすみそう等花き類。

○トラップの活用

- ・7～9月の高温期であれば、成虫の誘殺ピークの約1週間後に産卵ピーク、約2週間後に1～2齢幼虫の発生ピークとなる(高井、2000)。



写真1 幼虫を飼育し得られた成虫



写真2 成虫とスケール



写真3 キャベツ葉裏の卵



写真4 老齢幼虫